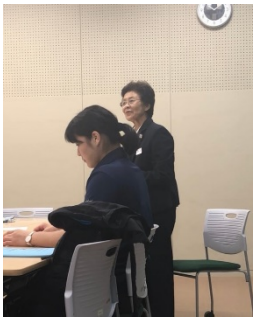
【みんなの柔道―誰もが居心地の良い石川県柔道を考える―】ワークショップ　実施報告書

開催日時	2019 年 10 月 14 日（祝）
開催場所	金沢工業大学　23 号館・柔道場
参加人数	33 名

2019 年 10 月 14 日（祝）、金沢工業大学において、【みんなの柔道―誰もが居心地の良い石川県柔道を考える―】ワークショップ（以下、WS）を開催いたしましたので、ご報告させていただきます。

WS には、18 歳から 75 歳までの幅広い年代、そして「指導者」「審判」「競技者」「元競技者」「保護者」「子供と一緒に柔道を始めたママさん」など、多種多様な立場の女性が参加しました。



WS は、長崎桂子 石川県柔道連盟 副会長の挨拶で開始しました。

「初めてお顔を拝見する方、久しく見ていなかった方、多くの方がこのように集まって、これからの石川県柔道を話し合えること、楽しみにしています」と挨拶されました。心なしか、娘や孫と久しぶりにあったようなうれしそうな表情だったように思います。

1．自己紹介とアイスブレイク

6 班に分かれ WS は開催しました。「顔は知っているけど話したことがない人」「初めて見る人」が多いであろう本 WS でしたので、簡単な自己紹介とグループの協同作業である「マシュマロチャレンジ」でチームビルディングを行いました。

それまで他人であった人たちが笑顔かつ真剣にマシュマロタワーに挑戦する姿は、場を和ませるのに十分な役目を果たしたように思います。チャレンジは 6 班が 69 ㎝のタワーで優勝しました。

2．ワークショップ説明

ここで司会者から本 WS に関する説明を行いました。

・良い案がでるときは「場が和んでいる」ときが圧倒的に多いこと
・明るい未来を話すのに、しかめっ面は不要。笑顔で取り組むということ
・本 WS は「正解」を求める場ではないこと

グループ討議の「ブレインストーミング」においては

・批判厳禁：アイディアの批判や評価をしない

・自由奔放：どんなアイディアも歓迎する

・質より量：多くのアイディアを出して拡散する

・結合拡張：アイディアを付け足して、発想を拡げる

を説明し、いよいよグループ活動が開始されました。

3．【なぜ「いま」の自分なのか】

それぞれの背景を踏まえ、

① なぜ柔道から離れてしまったのか

② なぜ柔道を（こどものときから、大人になってから）はじめたのか

③ なぜ柔道に関わり続けるのか

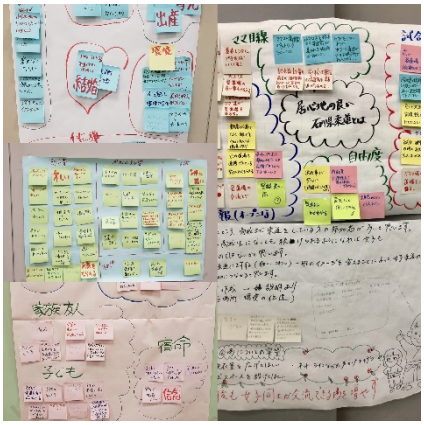
班ごとにその理由を共有し、その後、①～③のグループに分かれ、意見をまとめ、模造紙にグルーピングを行いました。

4．【居心地の良い石川県柔道とは】

各班で、ネガティブな理由で柔道から離れる人がいなくなるような、居心地の良い柔道環境についてグループで話し合い、共有しました。

5．【その実現のために】

４の「誰もが居心地の良い石川県柔道」の実現のための提案をグループで話し合い、共有しました。



6．【グループ発表】

４・５のテーマについて、グループごとに発表を行い、他メンバーとの共有を図りました。

7．【みんなで柔道】

発表終了後、柔道場に移動し、20 年ぶり（！！！）に柔道衣を着た方、柔道舞踊を体験してみた方、男性相手に乱取りをする方、それをみて笑っている方、お子さんと遊ぶ方と時間いっぱい思う存分それぞれの「柔道」を堪能しました。

8.【まとめ】

本ワークショップで挙がった意見や提案は以下の通りです。

〇柔道から離れる理由として、「ポジティブな方向転換」「嫌気がさした」「人間関係」「仕事」「環境」「ケガ」「結婚・出産・育児」が挙げられました。

〇継続的に柔道に関わる理由として、「仕事」「家族・友人」「信念」「子ども」「楽しさ」「成長」が挙げられました。

〇柔道に惹かれた、始めた理由として、「感情」「周囲の影響」「子ども」が挙げられました。

〇誰もが居心地の良い石川県柔道にするための提案として、

・**「施設（武道館そのもの）の建設」**

・授乳室やバリアフリー化などの**「施設の改修」**

・大会会場のローテーションや観客席の場所取りなどの改善などの**「親の負担を減らす」**

・選手のアップ場所を平等にする、観覧席の応援マナーなどの**「試合に関する要望」**

・強化練習や練習試合だけではない、県外大会では同県を応援できるような**「道場の交流」**

・小さな子をもったママ柔道家が交流したり、子育ての悩みなどを聞いてもらえるような、所属に囚われない**「女性の交流」**

・道場の紹介や高校柔道部の活動内容を進学前に中学生がわかりやすくしたり、女子柔道や柔道交流の情報を掲載するなどホームページの充実を含めた**「情報」**

・出身校に囚われない、強制をされない、ゆるく柔道ができる、気を使わなくていい**「交流の場」**

・栄養指導や女性の身体のメカニズムなどの講習・講演に参加するなどの**「保護者の学びの場」**

・指導者の人材派遣などを通しての**「行き届いた指導」**

・産休明けや育児後の**「現場復帰」**

・大人が、他所属の悪口を言わないような**「大人の成長」**

・女性が保育園で柔道を教えたり、女性の指導者を増やすなどして、柔道の悪いイメージを変えていくなどの**「柔道普及」**

などが挙げられました。

9. 終わりに

本県では柔道人口の減少が著しく、その対応策をいろいろと検討しております。その中で、女性柔道経験者のカムバックは必要だと感じていましたが、なかなかその一歩を踏み出すことができませんでした。この度、全日本柔道連盟のカムバック女子プロジェクトのおかげで、「はじめの一歩」を踏み出すことができました。

会を終えてみると、「こういう会を待っていた」「地域で悩んでいて相談できる人がいなかった」「子育ての最中や終えた後どうしようかと思っていたが、みんなの話を聞いて不安がなくなった」など、

ポジティブな意見を多く聞くことができました。また、石川県柔道全体や女子柔道普及に関する課題も多く発見することができたため、今後はそれに対し、様々な角度からアプローチをしていきたいと思います。

　最後になりますが、このようなきっかけを作ってくださった全日本柔道連盟さまに感謝申し上げ、実施報告書とさせていただきます。

石川県柔道連盟
鈴木　貴士